

第2章 現在の女性教師像

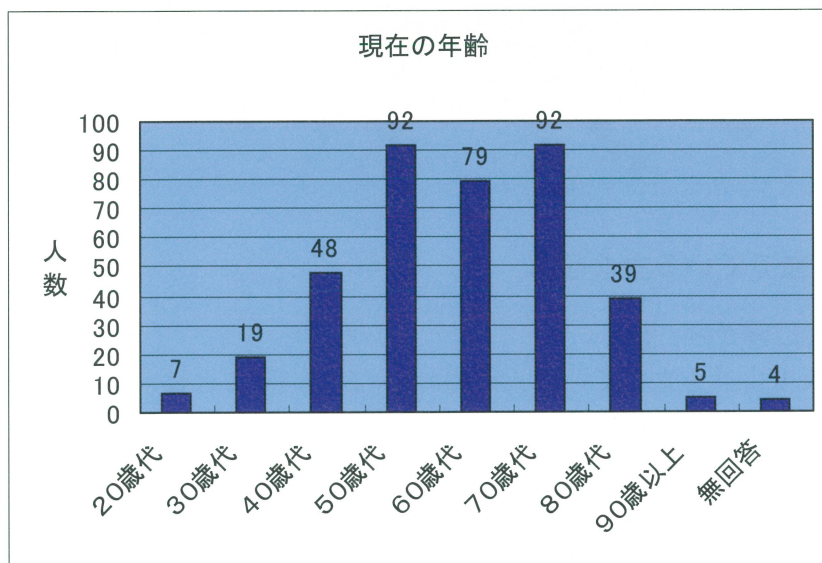
第1節 女性教師の現状

1) 現在の年齢

【 中年のパワーが圧倒的 】

50代～70代の方が多く、若い方が少ないことが解りました。男性教師の多くはお寺に生まれ育ち、20代前半で教師資格をとり、結婚し、大半は後継者として住職が約束されています。それに比べ女性教師は、お寺に育ったからといって得度する人は少なく、剃髪すれば結婚しないのが当然のように見られ、多くは中年以後に発願出家したり、住職婦人となって始めて教師資格を取ろうとするなど、スタートが遅い人が多いせいだと思います。

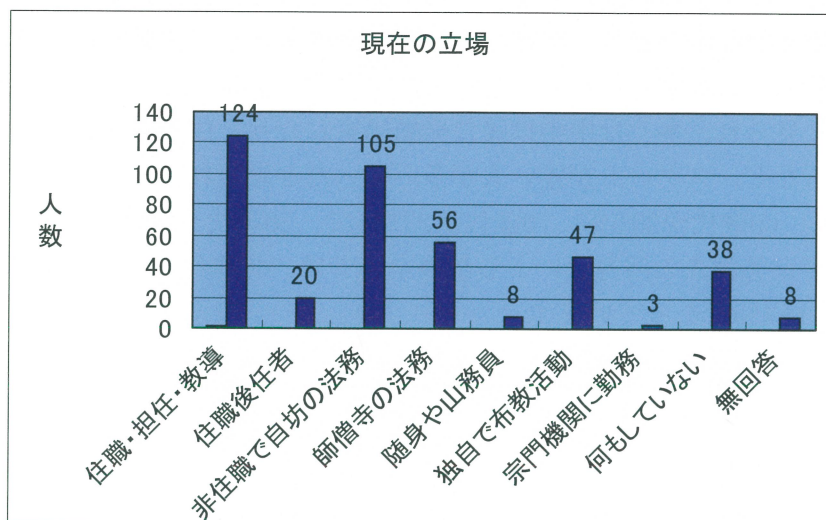
50歳代が23.9%、60歳代が20.5%、70歳代が23.9%で、50歳代～70歳代で約70%になります。最新の平成8年度宗勢調査の回答者による教師全体では、40歳代が一番多く22.5%、50歳代が18.6%、60歳代が15.4%となっています。



2) 現在の立場

【 陰で支える女性教師 】(複数回答あり)

設問3-5(第1章第2節(5))の「信行道場入場の動機」の結果がここに現れています。何もしていないと答えた方が38人(約9.9%)もいることが気に掛ります。住職・担任・教導が約32%、非住職が約66%です。教師全体では、住職・担任・教導が53.3%、非住職が46.7%です。(平成14年8月31日現在)比較すると、女性教師は寺院では補助的役割についている方が多いことがわかります。

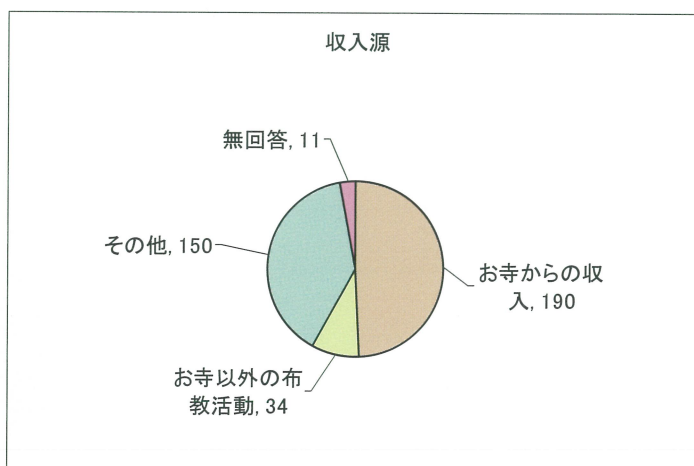


3) 現在生計を立てている主な収入

【 収入はお寺以外から 】

教師以外の収入で生計を立てている人が約4割いるということは、女性教師が活躍できる場が少ないことや、お寺から生計を立てる為の十分な収入が得られていない事などが考えられます。

教師全体では、「寺務のみに従事している(他寺院勤務・宗門機関に勤務するものも含む)」が4376人(79.9%)、「寺務以外に兼業している」は698人(12.7%)、「寺務以外を専業している」は284人(5.2%)でした。(最新の平成8年度宗勢調査報告書の回答者の比率より)



第2節 女性教師として活動していない人の状況

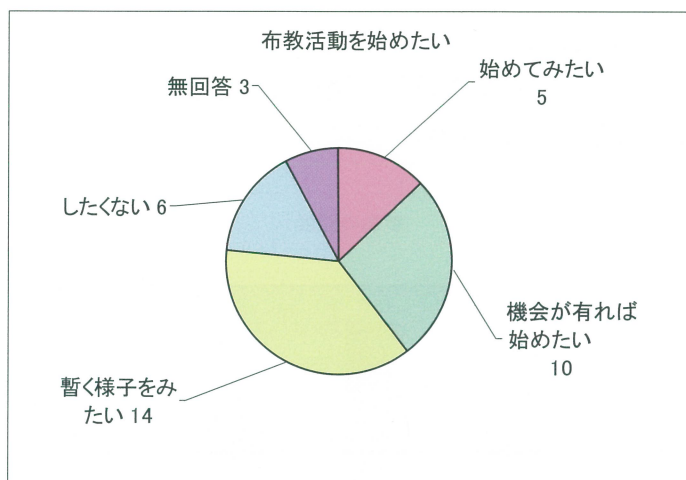
1) 活動についての意欲

「布教活動を始めたいと思っていますか」

◇設問4の「現在の立場はなんですか」で「何もしていない」と答えた方

現在何もしていないと答えられたのは、回答者385名のうち38名でした。現在何もしていないというものの、ご高齢のかたも多く、信仰を捨てたわけではありませんでした。そして現在何もしていないご高齢の方でも、女性のための修法道場があれば入行したいという意欲的な気持ちのあることに感銘しました。

「始めてみたい」が13.2%、「機会があれば始めたい」が26.3%、「しばらく様子をみたい」が36.8%、「したくない」が15.8%、無回答が7.9%でした。「したくない」と答えた6人の方の理由が気になるところです。



2) 紹介者の有無

「紹介してくれる人はいますか」

◇設問6「現在何もしていない」で、(1)「始めてみたい」と(2)「機会があれば始めたい」を選んだ方

「師僧」が3人

「知人」が0人

「いない」が12人

師僧が身内でない場合、道場修了後の仕事の紹介がなされていないようです。宗務院の総合相談所や宗務所の相談室、ミトラサンガの相談窓口などをもっと活用してもらうために、広報に力を入れると良いと思います。

3) 還俗の意志の有無

◇設問6「現在何もしていない」で、(4)「布教活動したくない」を選んだ方
「したくない」と答えた方は6人でした。その内「還俗したい」と考えている人は、
考えている・・・・・・・・・・1人
考えたことがある・・・・・・・・2人
考えていない・・・・・・・・3人
「布教活動したくない」と思っているでも、還俗まで考えている人は少ないようです。

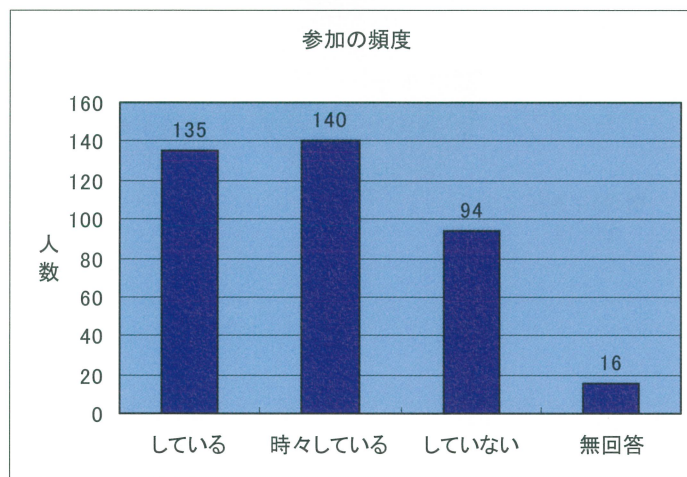
第3節 宗門における活動状況

1) 行事参加の有無

【 奮闘している女性教師 】

「所属している管区の行事に参加していますか」

それぞれの立場で奮闘している女性教師の姿が見えます。しかし、意欲はあるがそれを生かす方法がわからない人もいると思われまます。



管区の行事については、次のような声がありました。

「管区の行事の案内がない」

「管区や法縁行事に、師僧が不都合で欠席しても代理として出席できない」

「乳幼児育児のため、会議・法要・研修になかなか行けない」

「自坊の仕事と自分の仕事でいっぱいです」

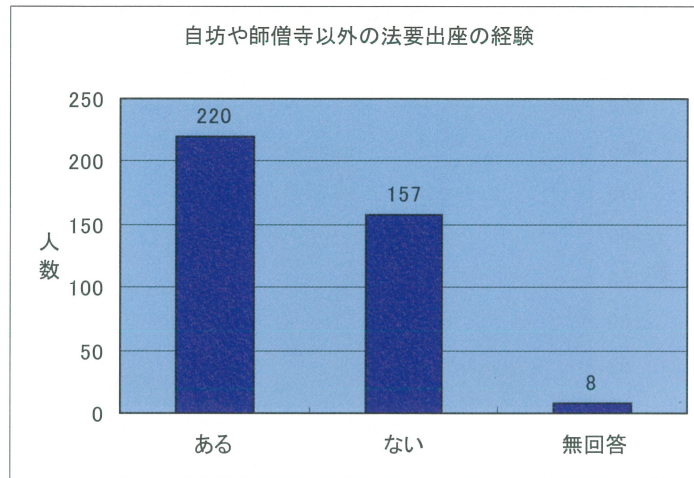


2) 法要経験の有無

【 経験の少ない女性教師 】

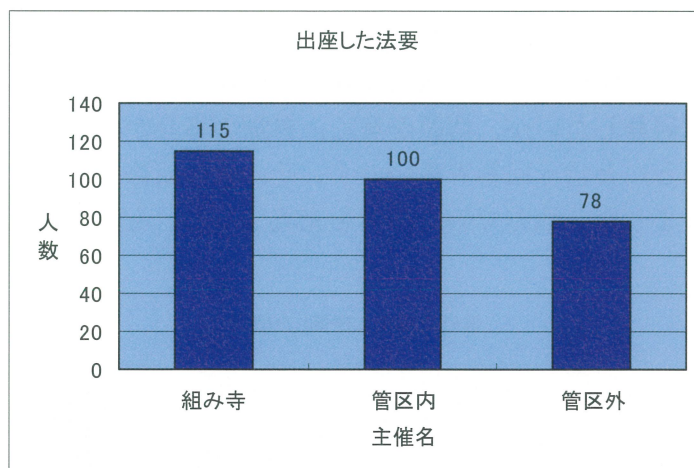
「自坊や師僧寺以外の法要に出座したことがありますか」

「ない」と答えた方が40.8%もあり、出座の機会に恵まれない女性教師の姿をあらわしています。しかし設問14「今後参加したい講習会又は研修機関がありますか」で声明の講習会と答えた人も多く、経験を積み、自信を持って法要を営みたいと思っている女性教師も多いのです。



3) 法要出座の場所

上記の設問で「ある」と答えた人に「何処の法要に出座しましたか」（複数回答）と尋ねたところ、自坊や師僧寺以外の法要に出座したことの無い人が157名（約4割）いる反面、出座した経験がある人はいろいろな法要に出ていることがわかります。

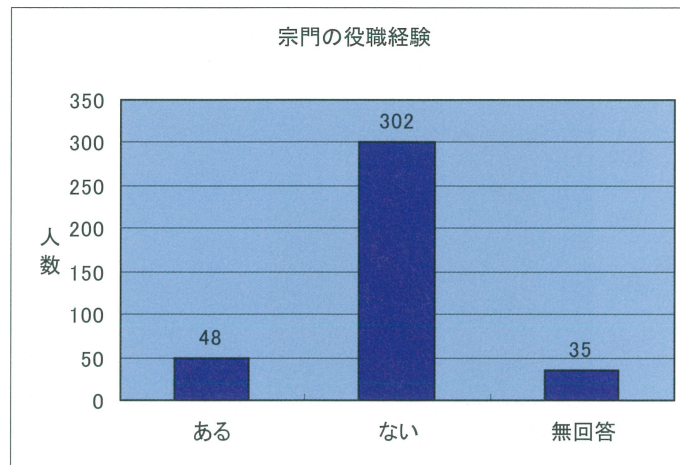


4) 役職経験の有無

【 女性の意見も取り入れて！ 】

「管区内外で宗門の役職に就いたことがありますか」

圧倒的に「無い」と答えた方が多く、約8割でした。女性教師の声が宗門に反映されることがほとんどないことがわかります。補教信行道場の廃止についても、寺庭婦人の問題にしても、女性の問題であるにも関わらず、女性の意見を発言する場を与えられていないように思われます。女性の問題も男性によって決められているのが現状です。



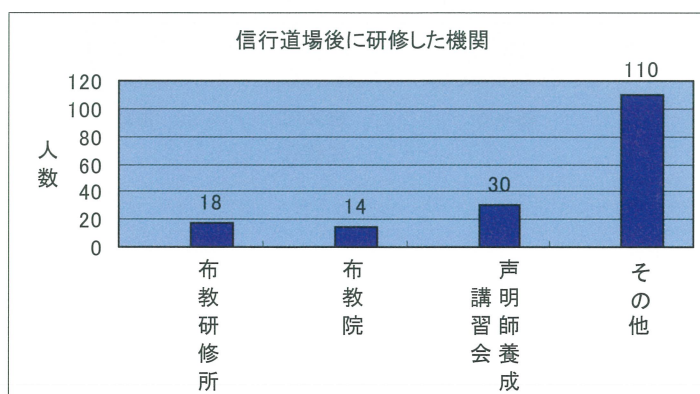
5) 信行道場以後の研修状況

「信行道場修了後に研修した機関はありますか」(複数回答)

【 気持ちはあるけど体力が 】

高年齢という事が、女性教師の資質の向上や宗門における活躍を妨げているのではないのでしょうか。男性教師は大学時代から研修機関に入り、様々な研修の機会に恵まれています。若い男性教師達の中であって年齢の高い女性教師が研修するのは、体力的にも気力的にも大変だと思います。育児や介護で時間的、経済的なゆとりがない場合もあります。

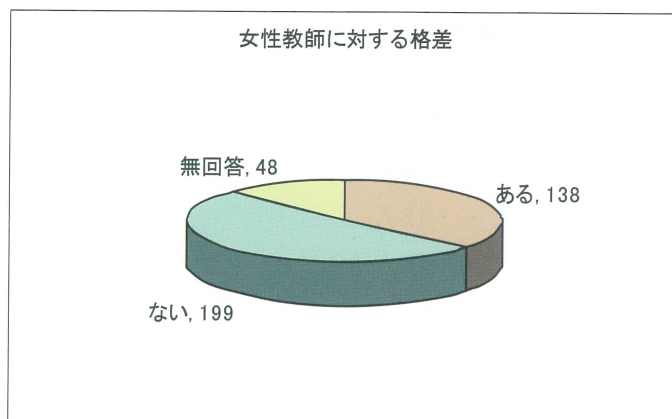
また、道場修了後も研修したいが、情報が無く、参加の機会が十分に得られない(所達・宗報が手元に届かないなど)という回答も多いです。その他の研修として、九識霊断法・中山妙宗・読誦講習会がありました。地方での研修会を充実すると、もっと積極的に参加出来るのではないのでしょうか。



第4節 女性教師への格差の現状

1) 格差の有無

「女性教師として疑問に思うこと、不都合に思うことがあるか」



2) 格差の実状

「ある」と答えた人はどんなことですか。

女性教師に対しての不平等がある・・・・・・・・・・・・・・・・・・71人
女性教師の研修の場が少ない・・・・・・・・・・・・・・・・・・16人
修法師になれない・・・・・・・・・・・・・・・・・・10人
身体的性差による不平等がある・・・・・・・・・・・・・・・・・・6人
僧階についての不平等・・・・・・・・・・・・・・・・・・4人
女性教師の交流の場がない・・・・・・・・・・・・・・・・・・5人
宗門での女性教師の位置づけの不明さ・・・・・・・・・・・・・・・・・・5人
師弟関係の難しさ・・・・・・・・・・・・・・・・・・3人
生活を守るより法華經の行学を布教するべき・・・・・・・・・・・・・・・・・・3人
尼僧の化粧について・・・・・・・・・・・・・・・・・・2人
その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・5人

「ある」と答えた人の中には、「女性に住職はさせられない」、「葬儀の導師をさせられない」と言われた、また、「法要に女性が入ると格が下がる」、「葬儀で女性の声だと物故者は成仏できないと中傷される」、「男性教師に子供もいるのに、大体女が出てくるのは好かんと言われた」などの声がありました。寺院社会での女性蔑視が伺われ、まだ宗内の男女共同参画社会の認識は弱いように感じられます。

「葬儀の導師が出来ない」という回答は、地域によって差があります。また管区や宗門の法要に参加したいという声も多く、「寺庭婦人会」の法要などは女性教師が中心になって行うことも良いのではないかと声もありました。

しかし、女性教師は経験が少ないため、自信を持って法要に参加出来るように研修の場が必要であると思われます。